

企業名：株式会社ダイセル

レポート名：ダイセルレポート

1. この会社が目指す姿が理解できるか（将来）

株式会社ダイセルの「ダイセルレポート 2024」において、同社が目指している将来の姿は明確に示されている。「価値創造によって人々を幸せにする会社」を基本理念としていて、理念の実現のためサステナブルな社会の実現と事業拡大の両立を掲げており、その達成に向けた数々の取り組みを報告書内で明示している。サステナブルな社会の実現に関しては、大量消費社会から脱却し循環型社会への貢献を目指し、そのための長期ビジョンや中期戦略を設定している。環境負荷を低減させる技術や製品の開発を加速させる方針を示しているほか、事業運営の中での ESG(環境・社会・ガバナンス)への取り組みを強化していることが強調されている。また、事業拡大に関しては、事業ごとに詳しい事業戦略を記載している。新しいモノづくりの在り方を追求し、ダイセル式生産革新で培った高効率で無駄のないバリューチェーンの構築を目指している。以上より、事業拡大と同時に、環境保護や社会貢献を基盤にした持続可能な成長を目指すダイセルの将来の姿勢が読み取れる。

2. この会社の競争優位性が理解できるか（現在）

競争優位となる強みとして、「バイオマス化学のパイオニア」、「創業以来培ったユニークな技術」、「ダイセル式生産革新」を挙げている。これらの強みをもとに、誘導品化学メーカーとして、付加価値の高い製品の製造を行っている。大きな市場シェアを持ち、高い技術力を有したうえで、効率的な生産を行っていることが読み取れる。

3. その競争優位性に持続性があるかどうか理解できるか（変化）

オイルショック後にはいち早く石油に頼らない原料転換を行うなど、市況や環境の変化に柔軟に対応できる企業だと判断できる。そのため、先行きの読めない化学業界に位置しているが、柔軟な意思決定のもとで、競争優位を維持できると考えられる。ただ、ダイセルの海外売上高比率は 70%近いため、トランプショックやチャイナリスクなど、世界経済の動向を注視して経営を行う必要がある。

4. この会社で自身の人的資本の価値向上を達成できると思うか

一定程度達成できると考える。会社が理念体系を明確に示しているため、従業員は、自分

の仕事が会社にとって意義のあるものかどうか理解することができる。一方で、現在の同社の競争優位は技術力に拠るところが大きく、人的資本の価値向上がそれほど求められない環境であるとも考えることもできる。

5. 報告書のよかった点はどこか、どのような改善余地があるか

報告書のよかったところは、企業のビジョンが明確に示されていて、企業の将来像がイメージできた点である。特に、「価値創造によって人々を幸せにする会社」という基本理念の達成のために何をすべきか詳しく記載されており、一貫性のある報告書であった。一方で、同じような内容が繰り返し述べられている箇所が見受けられ、読み手に伝わりやすいように、簡潔にするべきである。

【参考文献】

ダイセルレポート 2024

https://www.daicel.com/sustainability/pdf/library/daicel_report_2024.pdf